

進捗状況のご報告 / 2026年5月

# 株式会社ジャパンエンジンコーポレーション 第2次 中期事業計画（2025年度～2027年度）

造るのは、未来のスタンダード。



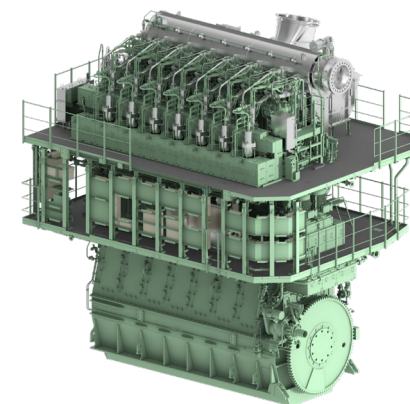
**J-ENG**  
ジャパンエンジンコーポレーション

2026年 5月 14日  
(証券コード:6016 / 東証スタンダード)

# 目次

1. 進捗状況サマリー
2. 2025年度 経営成績
3. 2026年度 業績見通し
4. 株主還元
5. 資本コストや株価を意識した経営の実現
6. トピックス

## UE 70<sup>th</sup> Anniversary



UEエンジンは、  
1955年に初号機が完成、  
2025年で誕生70周年になりました  
そして2025年  
次世代脱炭素燃料への転換を実現する  
アンモニア燃料エンジンが完成しました



# 目次

---

1. 進捗状況サマリー
2. 2025年度 経営成績
3. 2026年度 業績見通し
4. 株主還元
5. 資本コストや株価を意識した経営の実現
6. トピックス

# 1. 進捗状況サマリー ①

## ◎2025年度：増収、増益、増配、過去最高を達成(3期連続)



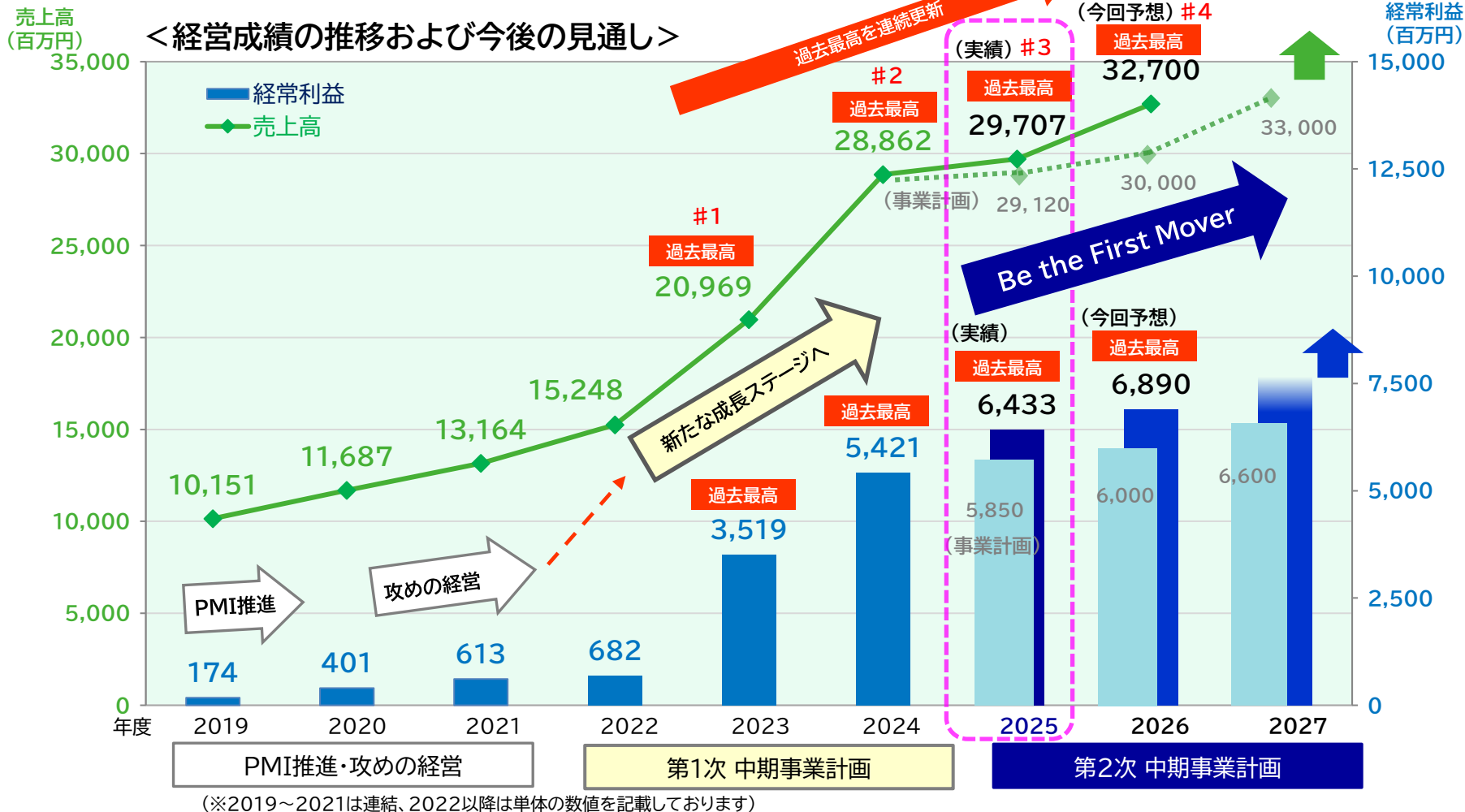
- ・第2次中期事業計画においても、適時・適切な打ち手を講じ、成長戦略を推進中。これにより、事業は想定を上回る速度で伸長し、3Qに**上方修正を実施**。**経営成績は計画値を超過して着地、売上高・利益は、3期連続で過去最高を更新**。かかる状況を踏まえ、株主還元の更なる強化にも取り組むべく、**増配**を決議。
- ・当社がファーストムーバーとして世界に先駆けて取り組む**次世代脱炭素燃料エンジン**の開発・製造は、計画に沿って進捗。**アンモニア燃料エンジン**は、**2025年8月に初号機が完成し、造船所へ納入済**。**水素燃料エンジン**は、初号機の**検証運転を実施中**であり、**2026年度内に完成・出荷予定**。第2次中期事業計画で策定した戦略の一つである、**将来の成長ドライバー育成と新たな市場創造**が、2025年度に順調に進捗。
- ・また、**UEエンジンのグローバル展開強化**により、海外ライセンサーにおける受注・生産・販売の好循環サイクルも拡大。海外ライセンサーでは新工場が完成、稼働しており、事業の更なる伸長へと繋げていく。

## ◎2026年度：増収、増益、増配、過去最高を4期連続更新へ



- ・2026年度についても、成長軌道を持続、増収・増益・増配を見込んでおり、売上高・利益は、**過去最高の4期連続更新**を見込む。また、**事業計画策定値比**では大幅な**超過達成**を見込む。
- ・社会や業界の変化を的確に把握し、ファーストムーバーとしてUEエンジンの付加価値を更に高める開発に注力。自社での製造・販売・アフターサービスに加え、グローバル展開を進めることで、UEエンジンの世界シェアを更に拡大させ、業績の持続的な伸長を実現していく。

# 1. 進捗状況サマリー ②



**第2次中期事業計画の初年度(2025年度)は好発進、  
2026年度も成長軌道を持続させ、4期連続での過去最高更新を見込む**

# 目次

---

1. 進捗状況サマリー
- 2. 2025年度 経営成績**
3. 2026年度 業績見通し
4. 株主還元
5. 資本コストや株価を意識した経営の実現
6. トピックス

## 2. 2025年度 経営成績（概要）

売上高	修理・部品等の増収分が、船用内燃機関の減収分を上回り、売上高全体では <b>前期比増収</b> を達成
利益	収益性に優れる修理・部品等が堅調に推移することで、研究開発費増加の影響を吸収し、各利益段階で <b>前期比増益</b> を達成

金額単位: 百万円

26年3月期	通期 業績予想		通期 経営成績				
	期初 (5月13日)	上方修正 (2月10日) (A)	実績 (B)	達成率 (B/A)	前年同期		
					金額	比率	
売上高	29,120	29,500	29,707	100.7%	28,862	102.9%	
営業利益	4,760	5,380	5,458	101.4%	5090	107.2%	
経常利益	5,850	6,320	6,433	101.8%	5421	118.7%	
当期純利益	4,340	4,650	4,758	102.3%	4326	110.0%	
配当	中間	20	20	20	—	(20)	—
	期末	60	66	68	—	56	前年同期比 12円増配
	計	80	86	88	—	(76)	—

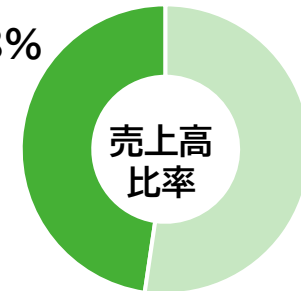
※2024年10月1日を効力発生日として普通株式1株につき3株の割合で株式分割を実施しております。  
 配当金については、25年3月期の期首に当該株式分割が実施されたと仮定して算定しております。

## 2. 2025年度 経営成績（売上高 / 船用内燃機関）

### (1) 船用内燃機関

今期	前期	前期比増減
14,170 百万円	← 16,780 百万円	△ 2,610 百万円 ( 15.6 %) 減

48%



#### 1) 各種施策の推進で売上高への計上を確実に実施

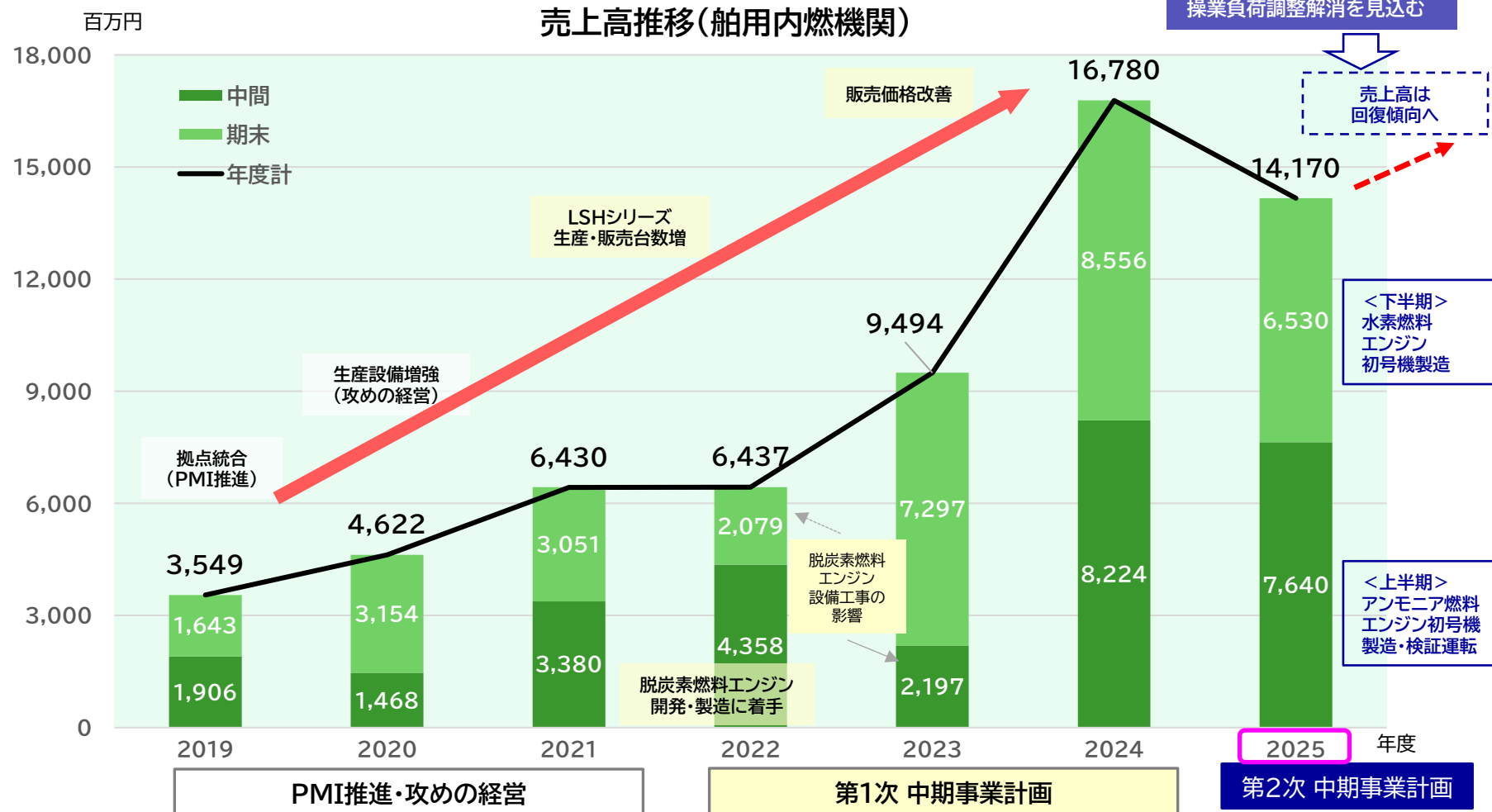
- ・新造船市場は堅調に推移しており、豊富な手持ち工事量を確保。工場操業を高位に保持しつつ、同型主機関の連続生産で生産効率化を実現。

#### 2) 次世代脱炭素燃料エンジン対応による操業負荷調整で前期比では減収

- ・アンモニア燃料エンジン初号機の製造・検証運転(上半期)、および、水素燃料エンジン初号機の製造(下半期)で操業負荷調整が生じ、前期比では減収。
- ・アンモニア燃料エンジンは、2025年4月からの実証運転を経て、2025年8月に完成、造船所へ納入済。水素燃料エンジンは、実証運転を経て、2026年度に納入予定。
- ・操業負荷調整は、水素燃料エンジンの完成により、順次解消の見込み。  
中長期的には、2028年度からの新工場稼働で、更なる事業拡大を目指す。

## 2. 2025年度 経営成績 (売上高 / 船用内燃機関)

### (1) 船用内燃機関



脱炭素燃料エンジン 初号機 製造・検証運転の影響

※水素燃料エンジン完成後は、 操業負荷調整解消を見込む

売上高は 回復傾向へ

<下半期> 水素燃料 エンジン 初号機製造

<上半期> アンモニア燃料 エンジン初号機 製造・検証運転

PMI推進・攻めの経営

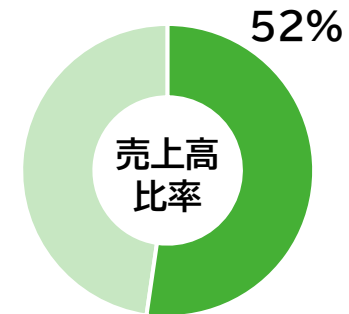
第1次 中期事業計画

第2次 中期事業計画

## 2. 2025年度 経営成績（売上高 / 修理・部品等）

### (2)修理・部品等

今期	前期	前期比増減
15,536 百万円	← 12,082 百万円	3,454 百万円 ( 28.6 %) 増



#### ①アフターサービス

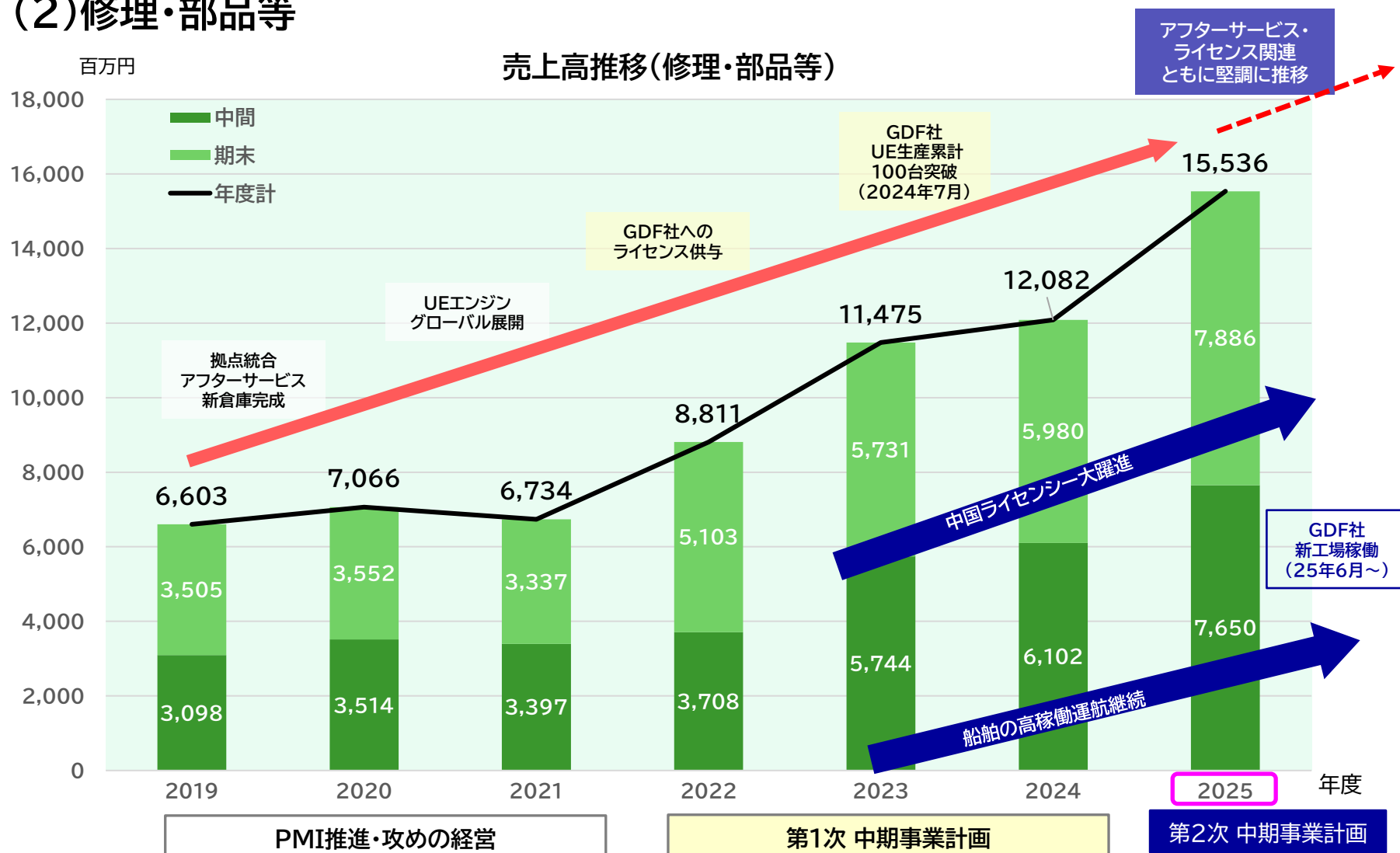
- ・船舶の高稼働運航が継続する中、エンジンユーザー様へのきめ細かい販促対応で、電子制御部品や燃焼室部材を中心とするメンテナンス需要を取り込んでおり、業績は堅調に推移。

#### ②ライセンス関連（部品供給・ロイヤリティー収入）

- ・UEエンジンのグローバル展開が奏功し、海外(中国)ライセンシーが大躍進。中国市場では、ライセンシー(GDF社)が、内航船マーケットでの受注・生産を拡大してきたが、新たに外航船マーケットにも進出することで、受注台数を更に拡大中。こうした状況を踏まえ、GDF社では新工場の建設に着手していたが、新工場は25年度に完成し、稼働を開始。
- ・当社は、ライセンシーでのUEエンジン製造にあたり、エンジンのキーコンポーネントをライセンシーに販売するとともに、エンジン完成でライセンシーからロイヤリティーを受け取るが、ライセンシーにおけるUEエンジンの受注・生産・販売の好循環サイクルが拡大することで、部品供給およびロイヤリティー収入の双方で、売上高が伸長。

## 2. 2025年度 経営成績 (売上高 / 修理・部品等)

### (2)修理・部品等



## 2. 2025年度 経営成績（利益）

### ◎第3四半期において**上方修正**を実施

収益性に優れる**修理・部品等が、想定を上回って伸長、増益に寄与。**  
これを踏まえて、第3四半期において利益の上方修正を実施。

#### ・営業利益

当期は、アンモニア燃料エンジンの開発・製造・検証運転ならびに水素燃料エンジンの開発・製造を進捗させたことで、**研究開発費が増加**したが、全ての事業領域で業績が堅調に推移したことで、利益面への影響を吸収しており、研究開発費計上額の影響を受ける営業利益段階でも、前期比で増益を達成。

#### ・経常利益

脱炭素燃料エンジンの研究開発については、研究開発の進捗に応じて、国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の「グリーンイノベーション基金事業」から交付金を受け取り、営業外収益に計上。

**当期は、研究開発の進捗により、研究開発費は前期比で大幅に増加したが、それにより交付金も同様に増加**しており、経常利益段階では、前期比で大幅な増益を達成。

## 2. 2025年度 経営成績（受注高・受注残高）

### ◎サマリー:

事業伸長を反映し、受注高・受注残高ともに**前期比で増加**

#### (1) 船用内燃機関 **先行き3年程度の工事量を確保済**

- ・顧客の旺盛な需要を背景に、船用内燃機関は、生産枠取り(内示案件)を3年程度先まで取得済。工場操業は、先行きについても、高操業が継続する見通し。
- ・内示案件は、適正なリードタイムを確保しながら、コストプッシュ見合いでの価格転嫁交渉を継続し、受注高として計上。このため、受注計上額は、四半期毎では一定の変動が発生。

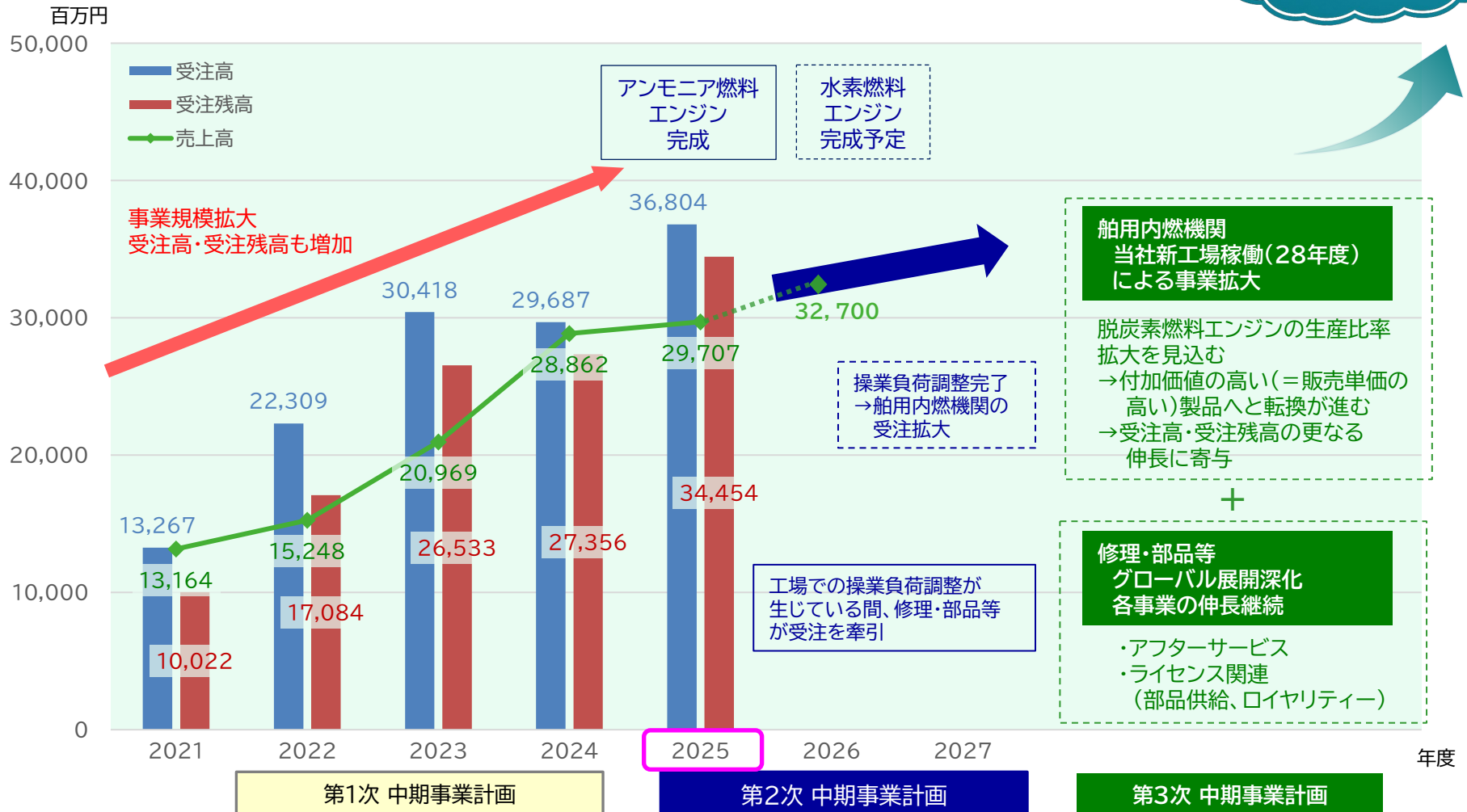
#### (2) 修理・部品等 **アフターサービスは堅調に推移、ライセンス関連の事業拡大も継続**

- ・アフターサービスは、船舶の高稼働運航を背景に、受注高・受注残高ともに堅調に推移。
- ・ライセンス関連(部品供給、ロイヤリティー収入)は、UEエンジンのグローバル展開深化で、世界シェアが拡大局面にあり、特に海外(中国)ライセンシーが大躍進することで、就航船の残存隻数も増加しており、受注高・受注残高ともに順調に拡大。
- ・これらの結果、アフターサービスおよびライセンス関連を合算した、修理・部品等としての受注高、受注残高は、いずれも前期比で増加。

## 2. 2025年度 経営成績（受注高・受注残高／全体）

受注高 36,804百万円 ←前年同期比 7,117百万円 (24.0%) 増  
 受注残高 34,454百万円 ←前年同期比 7,097百万円 (25.9%) 増

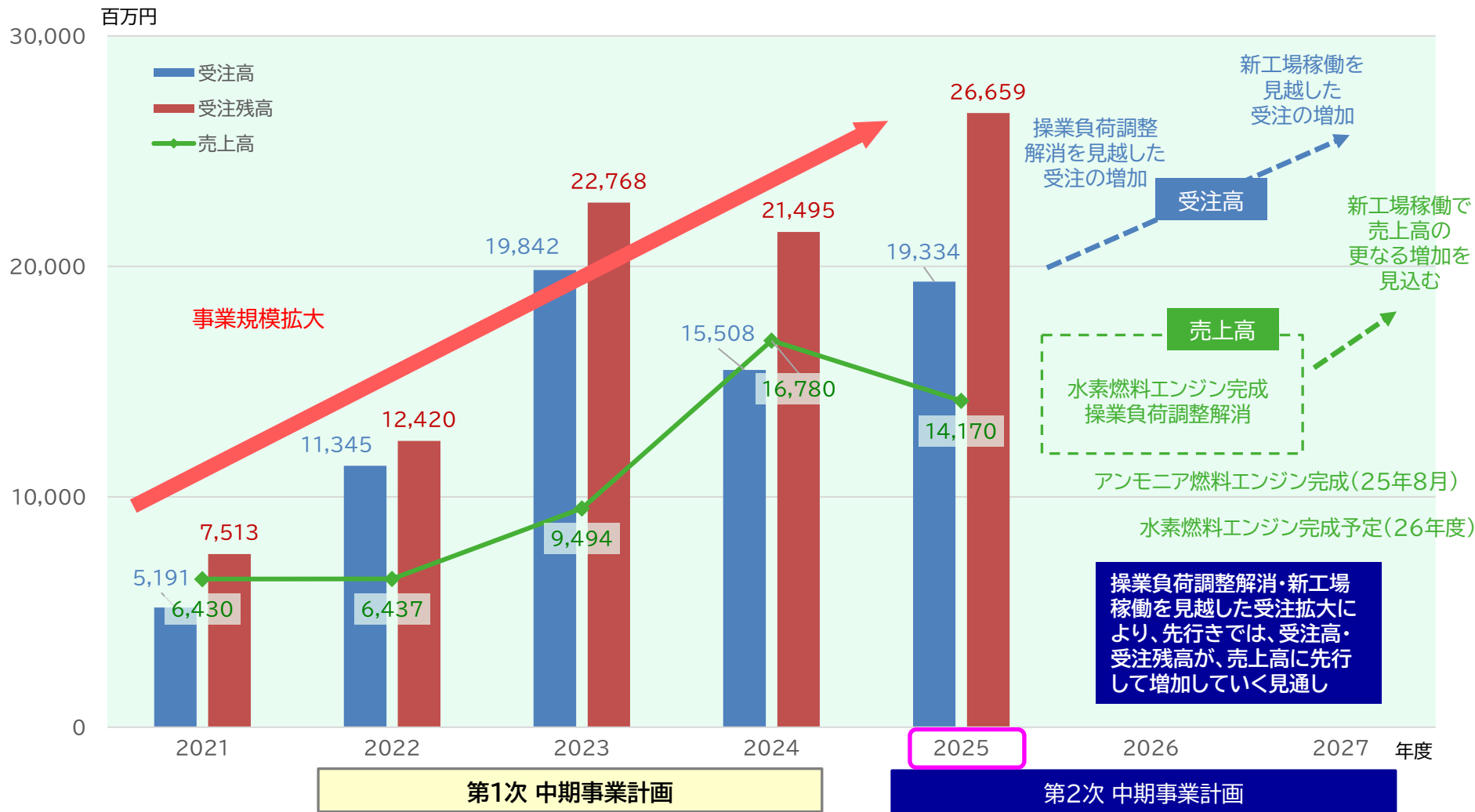
中長期目標  
 売上高 500億円  
 経常利益 100億円



## 2. 2025年度 経営成績（受注高・受注残高／船用内燃機関）

受注高 19,334百万円 ←前年同期比 3,826百万円 (24.7%) 増  
 受注残高 26,659百万円 ←前年同期比 5,163百万円 (24.0%) 増

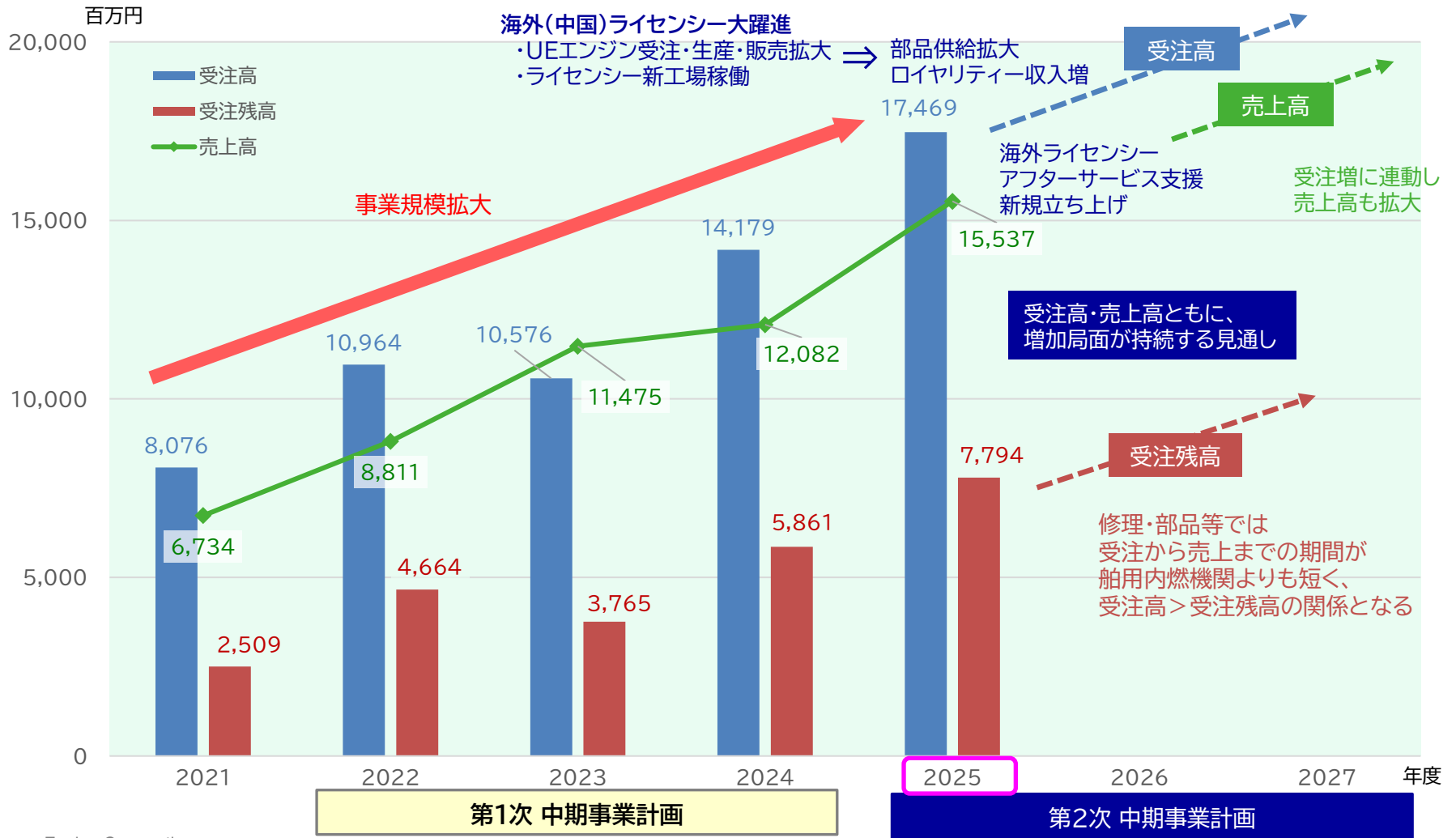
脱炭素燃料エンジン完成  
 および新工場稼働で  
 更なる飛躍へ



# 2. 2025年度 経営成績（受注高・受注残高／修理・部品等）

**受注高** 17,469百万円 ←前年同期比 3,291百万円 (23.2%) 増  
**受注残高** 7,794百万円 ←前年同期比 1,933百万円 (33.0%) 増

UEエンジンのグローバル展開深化で持続的な事業拡大へ



# 目次

---

1. 進捗状況サマリー
2. 2025年度 経営成績
- 3. 2026年度 業績見通し**
4. 株主還元
5. 資本コストや株価を意識した経営の実現
6. トピックス

### 3. 2026年度 業績見通し

前期からの**増収・増益・増配**を見込む

- ・売上高・利益は、前期を上回り、4期連続で過去最高を更新する見通し
- ・事業計画策定値比では、超過達成を予想

金額単位：百万円

	2026年度		前年同期		備考
	事業計画 策定値	今回公表	金額	比率	
売上高	30,000	32,700	29,707	110.1%	➡
営業利益	—	5,880	5,458	107.7%	➡
経常利益	6,000	6,890	6,433	107.1%	➡
当期純利益	—	5,010	4,758	105.3%	➡
年間配当金額 (円/株)	—	100	88	12円増	➡

## 3. 2026年度 業績見通し（売上高）

### ◎サマリー:

船用内燃機関は回復傾向、修理・部品等での増収が続く

#### (1) 船用内燃機関 **同型主機関の連続生産継続、操業負荷調整は解消へ**

- ・最新鋭省エネ主機関であるLSHシリーズを中心に、受注残高を豊富に確保しており、工場操業を高位に保ちつつ、同型エンジンの連続生産を継続する。
- ・水素燃料エンジンは、検証運転を実施後、2026年度内に造船所へ納入予定。これにより操業負荷調整の解消を見込む。
- ・これらの取り組みにより、主機関の販売台数は前期比増を予定しており、売上高も増加する見通し。

#### (2) 修理・部品等 **アフターサービス、ライセンス関連ともに拡大**

##### ①アフターサービス

- ・船舶の高稼働運航は継続する見通しであり、個船ごとに交換推奨部品の提案を強化していくことで電子制御部品や燃烧室関連部品を中心とする旺盛なメンテナンス需要の取り込みを継続していく。また、就航船が増加中の海外ライセンシー製主機関のアフターサービスについても取り込みを推進していく。

##### ②ライセンス関連(部品供給、ロイヤリティー収入)

- ・海外ライセンシーの大躍進継続を見込んでおり、ライセンシーと一体となったUEブランドプロモーションを推進することで、ライセンスビジネスの更なる拡大を図る。また、グローバルサプライチェーンの構築などの取組みを進め、事業伸長に連動して部品供給能力を強化し、売上拡大を支えていく。

### 3. 2026年度 業績見通し (利益)

#### ◎サマリー:

収益性に優れる修理・部品等が続伸。これにより、事業の成長に向けた研究開発投資が高水準で継続する中でも、**全ての利益段階で前期比 増益を達成する見通し**

- ・船用内燃機関の売上高が前期比で回復傾向となることに加え、収益性に優れる修理・部品等が続伸することで、増益に大きく寄与。
- ・研究開発は、中長期での事業成長を見据え、前期に続き高い水準での投資を見込む。

#### ・次世代脱炭素燃料

##### アンモニア燃料エンジン

50LSJA (～2027年度)

→ 本船就航に先立ち、造船所において海上試運転の予定

##### 水素燃料エンジン

35LSGH (～2030年度)

→ 当社工場において初号機の検証運転を継続

国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)  
「グリーンイノベーション基金事業」案件

#### ・低炭素燃料

##### メタノール燃料エンジン

50LSJM (～2027年度)

→ 新燃料・重油エンジンの開発で蓄積された知見・ノウハウを活用し、短期間での開発を目指す

#### ・重油燃料

60LSH (～2028年度)

→ 重油・アンモニア燃料エンジンを同時並行で開発

→60LSJA (アンモニア燃料エンジン / ～2028年度)

# 目次

---

1. 進捗状況サマリー
2. 2025年度 経営成績
3. 2026年度 業績見通し
- 4. 株主還元**
5. 資本コストや株価を意識した経営の実現
6. トピックス

## 4. 株主還元

### ◎配当政策

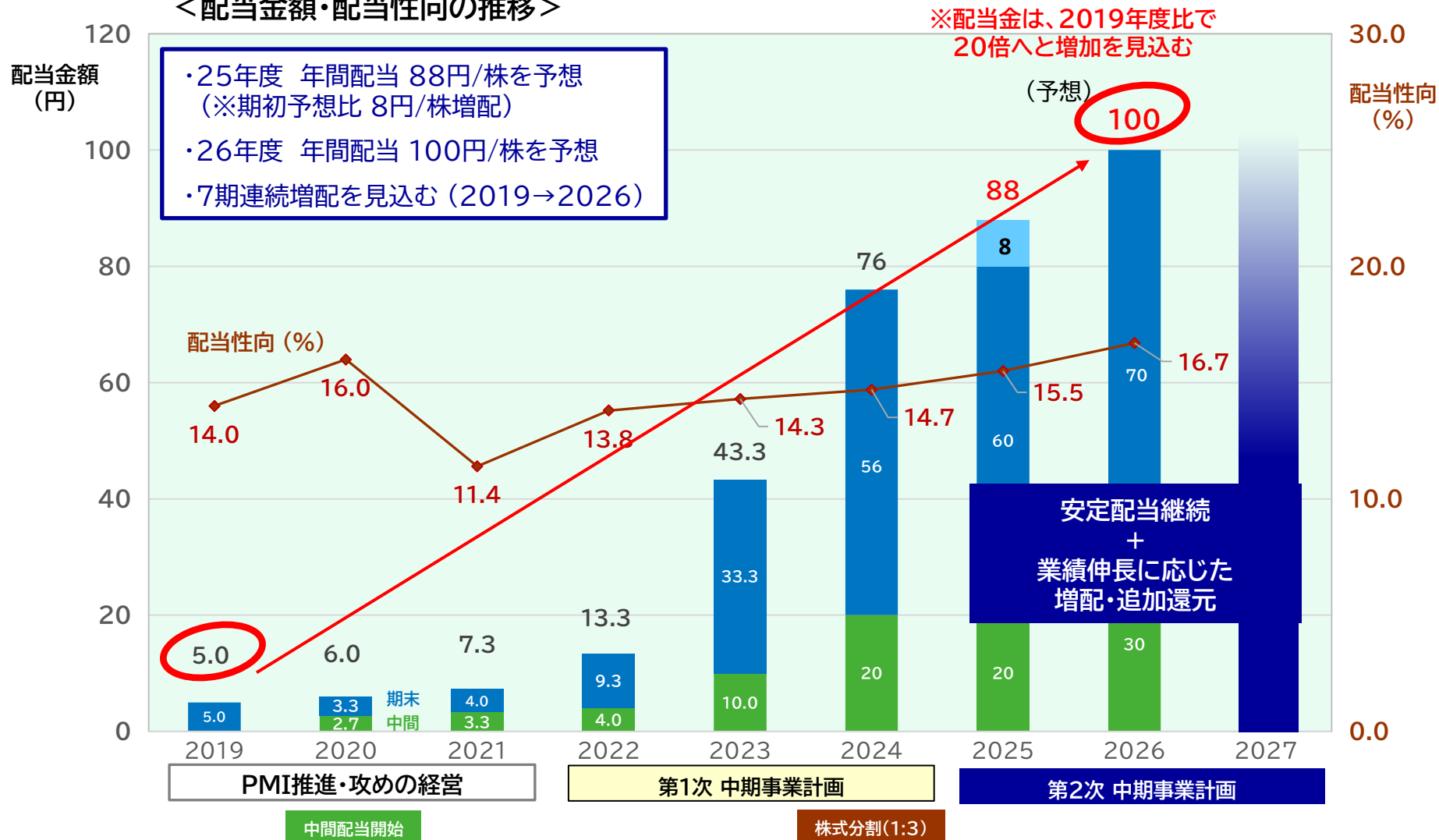
- ・当社は、株主の皆様への安定的な配当を継続して実施することを重視するとともに、景気の変動に左右されやすい業界内において経営基盤の強化を図るために、内部留保の充実を図ることは、長期的に株主の皆様への利益に適うものと考えており、収益状況等を総合的に勘案し、剰余金の配当を行うことを基本方針としております。

### ◎25年度の配当および26年度以降の見通し

- ・当社は、株主の皆様への還元強化も重要な経営課題の一つと認識しており、経営資源については成長投資へと分配し、増収・増益の果実を得るとともに、配当による株主還元にも充当しております。
- ・**2025年度**の配当は、中間で20円/株を決定、期末では、業績の上振れを踏まえ、期初予想比では8円/株の増配となる68円/株を予定しております。これにより、年間配当金額は、**88円/株**となる見通しです。
- ・**2026年度**の年間配当金額は、2025年度から更なる増配となる、**100円/株**を予想しております。これにより、2019年度から**7期連続増配**を見込んでおります。
- ・**第2次中期事業計画期間**(2025～2027年度)では、工場新設などの成長投資を予定しておりますが、その間においても、**配当性向を徐々に高めつつ、業績伸長に応じた連続増配を実現していく計画**です。  
また、仮に事業計画が想定通りに進捗せず、業績が計画未達となりました場合においても、配当政策に従い、**安定配当**に努めてまいります。

# 4. 株主還元

## < 配当金額・配当性向の推移 >



※2024年10月1日を効力発生日として普通株式1株につき3株の割合で株式分割を実施  
 2024年9月以前の配当金額は、株式分割が実施されたと仮定した場合の数値を記載

# 目次

---

1. 進捗状況サマリー
2. 2025年度 経営成績
3. 2026年度 業績見通し
4. 株主還元
- 5. 資本コストや株価を意識した経営の実現**
6. トピックス

## 5. 資本コストや株価を意識した経営の実現

### ◎取り組み方針

経営成績の持続的な成長に裏打ちされた、中長期的な企業価値の向上を実現

- ・株主資本コストを上回る自己資本利益率(ROE)を実現
- ・株価の持続的な上昇と、これに伴うPER、PBRの数値向上

### ◎第2次中計期間(2025年度～2027年度)での取り組み

当社株式の購入および継続的な保有により、キャピタルおよびインカムの双方のゲインを享受いただけるよう、各指標の更なる向上に資する取り組みを、弛まず進捗させてまいります

- ・**ROE**：事業計画で策定した打ち手を適時的確に講じ、ROEを高位で保持  
→これが、株価/PER/PBRの各指標の向上を裏打ちする大前提になると認識
- ・**株価**：株主/投資家の皆さまとのエンゲージメント構築を通じ、既に株式を保有いただいている株主様をはじめ、現在は未保有の投資家様からも、広くご支援/ご理解を賜るべく、IR/SR活動を継続、強化
- ・**PER**：事業計画の公表などを通じて、当社事業の持続的な成長の可能性を可視化。また、成長を「可能性」に留めず、計画に沿って事実へと具現化してきた実績や、今後も同様に具現化していくための方策を明確にすることで、成長可能性への信頼度を向上させる
- ・**PBR**：大規模な成長投資についても、財務レバレッジをはじめとする資産の効率的な運用で対応し、株主還元/成長投資/内部留保の適正配分を実現するための資本政策を推進

## 5. 資本コストや株価を意識した経営の実現

### ①当社の考える株主資本コスト：12%程度

$$\begin{array}{c} \boxed{\text{株主資本}} \\ \boxed{\text{コスト}} \\ \text{12\%程度} \end{array} = \begin{array}{c} \boxed{\text{リスクフリー}} \\ \boxed{\text{レート}} \\ \text{2.4\%程度} \end{array} + \begin{array}{c} \boxed{\text{ベータ}} \\ \text{1.6程度} \end{array} \times \begin{array}{c} \boxed{\text{マーケットリスク}} \\ \boxed{\text{プレミアム}} \\ \text{6\%程度} \end{array}$$

### ②当社財務指標等の推移

年度	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	
	第1次 中期事業計画				第2次 中期事業計画			
売上高 (百万円)	13,164	15,248	20,969	28,862	29,707	32,700	—	
経常利益 (百万円)	613	682	3,519	5,421	6,433	6,890	—	
当期純利益 (百万円)	548	809	2,548	4,326	4,758	5,010	—	
純資産額 (百万円)	6,666	7,344	9,749	13,880	18,389	—	—	
1株当たり当期純利益 (円)	65	96	304	516	567	597	—	
ROE (%)	8.5%	11.6%	29.8%	36.6%	29.5%	—	—	
1株当たり配当額 (円)	7	13	43	76	88	100	—	
年度末時点	株価 ※ (円)	326	425	3,940	3,410	12,230	—	—
	PER (倍)	5.0	4.4	13.0	6.6	21.5	—	—
	PBR (倍)	0.4	0.5	3.4	2.1	5.6	—	—

※当社は、2024年10月1日を効力発生日として普通株式1株につき3株の割合で株式分割を実施。

上表では、当該株式分割が、2021年度時点から実施されたと仮定して算出。(端数は四捨五入)

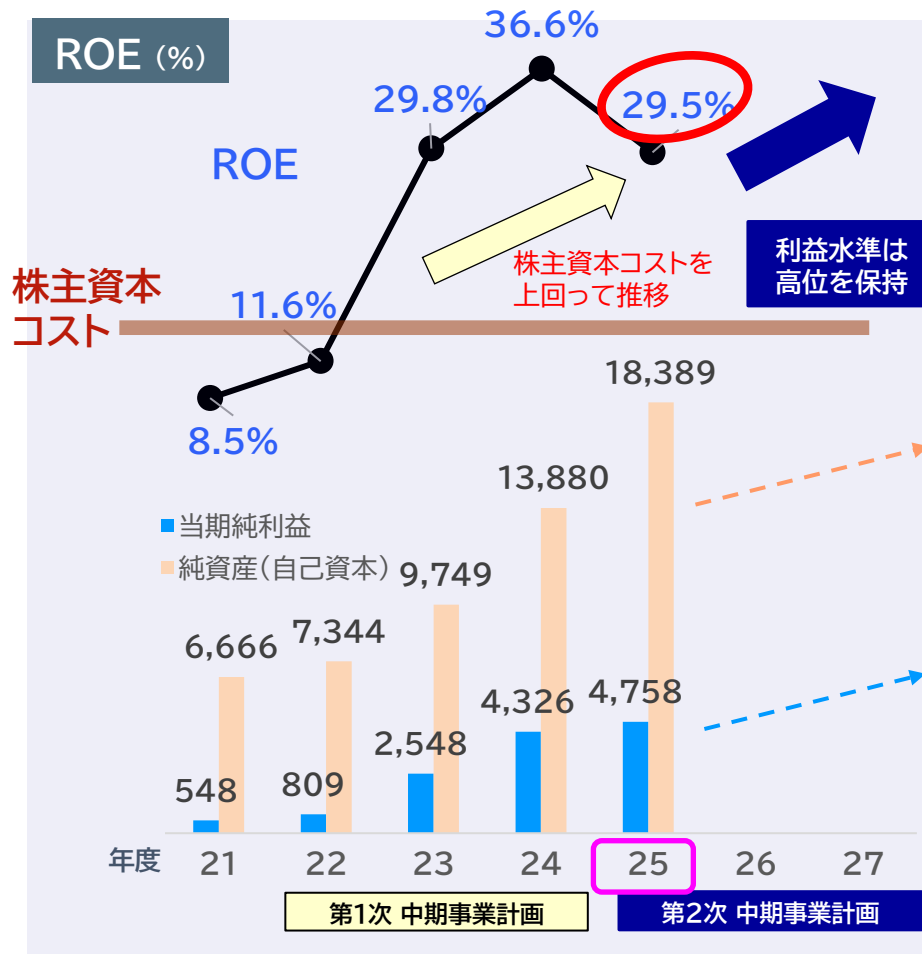
※ROEは、有価証券報告書で使用される計算式に準拠し、当期純利益÷{(前年度純資産額+当年度純資産額)÷2}で算出。

※2021年度は、連結決算をしておりますが、2022年度以降は非連結決算であることを踏まえ、上表では、当社単体の数値を記載。

# 5. 資本コストや株価を意識した経営の実現

## ③ 株主資本コストとROEの対比

・第2次中計期間中、事業計画の打ち手を通じて、経営成績の伸長と、それによるROEの持続的な向上に取り組むことで、ROEは株主資本コストを上回って推移させていく。



### #2中計 / ROE向上の取り組み

※ROE = 売上高当期純利益率 × 総資産回転率 × 財務レバレッジ

$$\left[ \frac{\text{当期純利益}}{\text{売上高}} \times \frac{\text{売上高}}{\text{総資産}} \times \frac{\text{総資産}}{\text{株主資本}} \right]$$

#### ① 事業の収益性 ↑

利益率の改善に寄与する各種施策を展開

- ・主機関 → 生産台数増、販売単価の上昇
- ・修理部品等 → ライセンス事業の伸長

#### ② 資産の効率性 ↑

既存のリソースを最大限に活用しつつ、事業を伸長させることで、資産の効率性を向上

- ・主機関 → 効率的な生産による販売台数増
- ・修理部品等 → アフターサービスおよびライセンス事業の伸長

#### ③ 資本政策

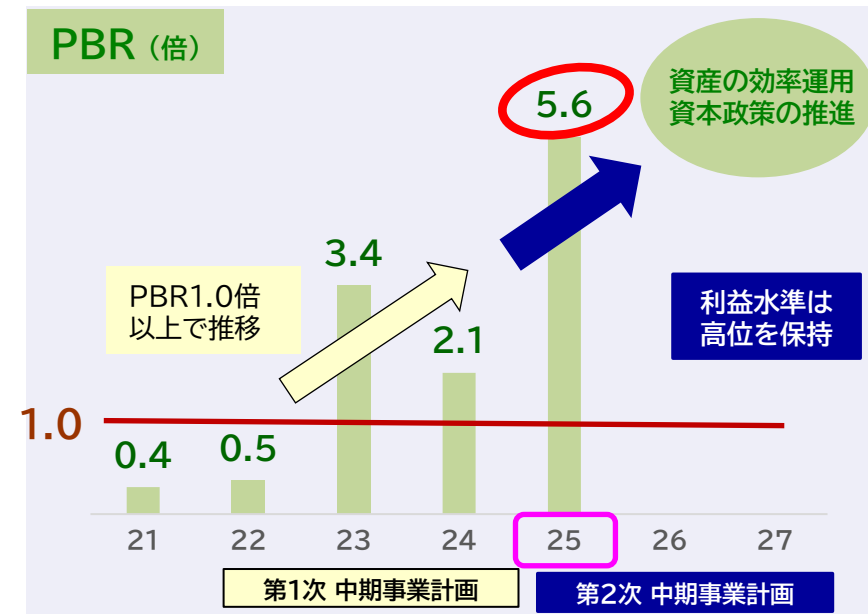
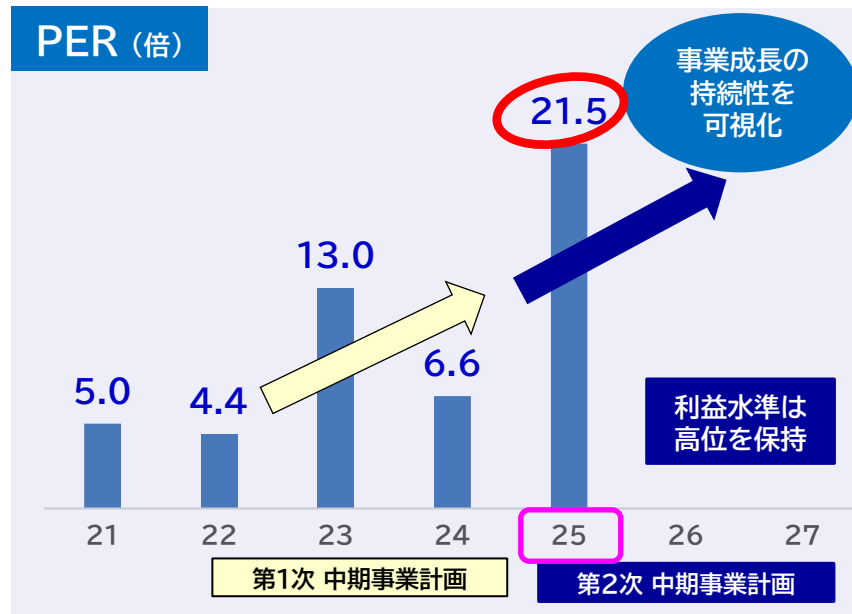
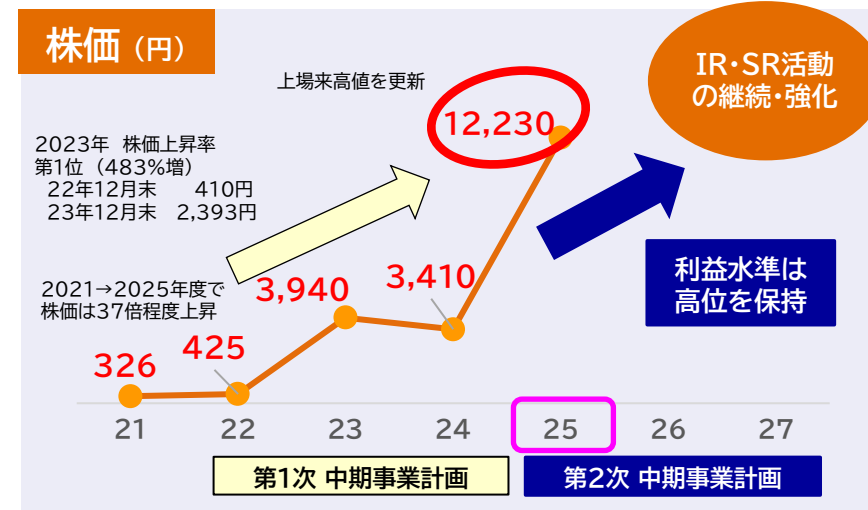
・次世代脱炭素燃料エンジンの研究開発、生産設備増強などの成長投資について、財務レバレッジを活用しつつ実行。株主還元にも積極的に取り組む。

# 5. 資本コストや株価を意識した経営の実現

## ④ 株価/PER/PBRの状況 (年度末時点)

- ・#2中計 初年度の2025年度は、株価が大きく上昇し、上場来高値を更新。これによりPERも大きく向上。PBRは継続して1倍以上で推移。
- ・2025年度の株価上昇の主な要因は以下と推測
  - ・#2中計で策定した成長戦略を推進し、経営成績が向上
  - ・造船業は重点投資17分野にも選定されており、業界全体に対し、更なる発展への期待が高まった
- ・こうした中で、当社は、引き続き、#2中計に沿って事業伸長に取り組むとともに、各指標の数値向上に資する施策を強固に推進してまいります。
 

※株価については、1:3の株式分割が2021年度から実施されていたと仮定して算出しております。



# 目次

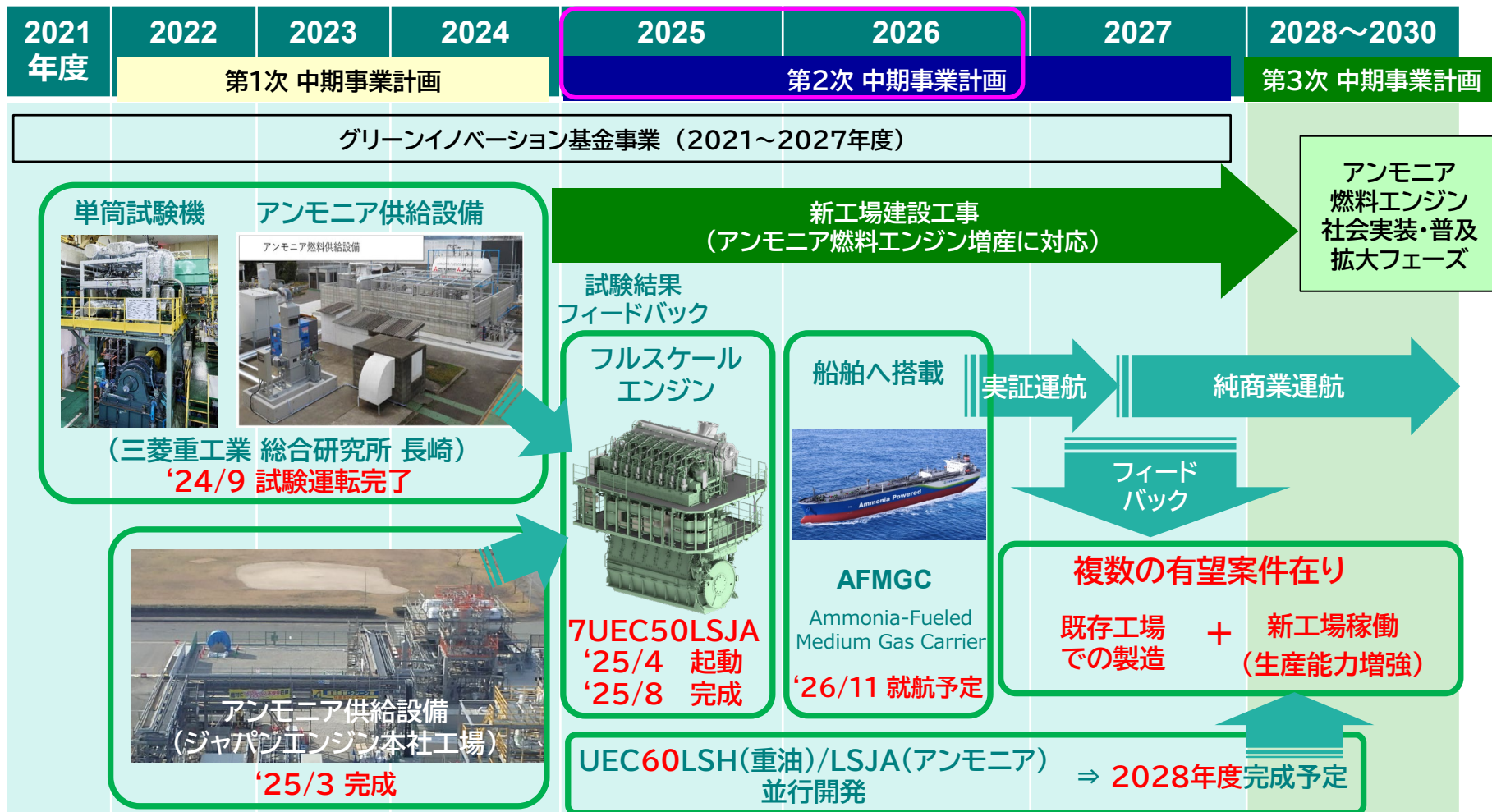
---

1. 進捗状況サマリー
2. 2025年度 経営成績
3. 2026年度 業績見通し
4. 株主還元
5. 資本コストや株価を意識した経営の実現
6. トピックス

# 6. トピックス / 次世代脱炭素燃料エンジン(アンモニア)

## ◎アンモニア燃料エンジン / 製造・実証運航スケジュール (グリーンイノベーション基金事業)

・開発は計画に沿って進捗中。エンジン初号機は2025年4月から混焼運転を開始、10月に造船所へ納入済。  
 今後、造船所での本船建造工事を経て、就航後に実証運航を開始予定。

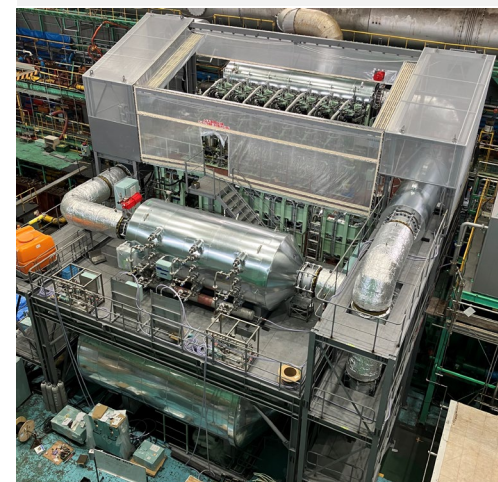


# 6. トピックス / 次世代脱炭素燃料エンジン(アンモニア)

## ◎アンモニア燃料エンジン / 完成、造船所への出荷を完了

- ・当社は、純国産アンモニア燃料エンジン初号機7UEC50LSJA-HPSCRを世界に先駆けて完成させました。
- ・本エンジンは、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の「グリーンイノベーション基金事業」プロジェクトにおいて開発を進めてきたもので、フルスケールの商用機となります。
- ・2025年8月、本社工場において、日本郵船株式会社様、日本シップヤード株式会社様、ジャパンマリンユナイテッド株式会社様、一般社団法人日本海事協会(Class NK)様のお立会のもと、本エンジンの陸上公試運転を実施し、成功裏に完了しました。
- ・本エンジンは、ジャパンマリンユナイテッド有明事業所で建造中のアンモニア燃料アンモニア輸送船に搭載され、本船は、2026年11月に就航予定です。
- ・当社は、本エンジンでのアンモニア燃料を使用した工場試験運転を、2025年4月に開始しており、その後、5か月間にわたる検証運転で各種性能を最適化するとともに、アンモニアの漏洩防止・監視機能などの高い信頼性と安全性を確認しました。また、その環境性能や安全性などはClass NKの承認も取得しております。
- ・当社は、現在、より大型のアンモニア燃料エンジン(シリンダ直径60cm)の開発や、新工場の建設も進めており、更には水素燃料エンジンの開発も進めることで、次世代燃料エンジンのファーストムーバーとして日本の海運・造船業界の発展に寄与するとともに、海運業界におけるGHG削減にも貢献してまいります。

アンモニア燃料エンジン  
7UEC50LSJA-HPSCR



陸上公試運転を成功裏に完了

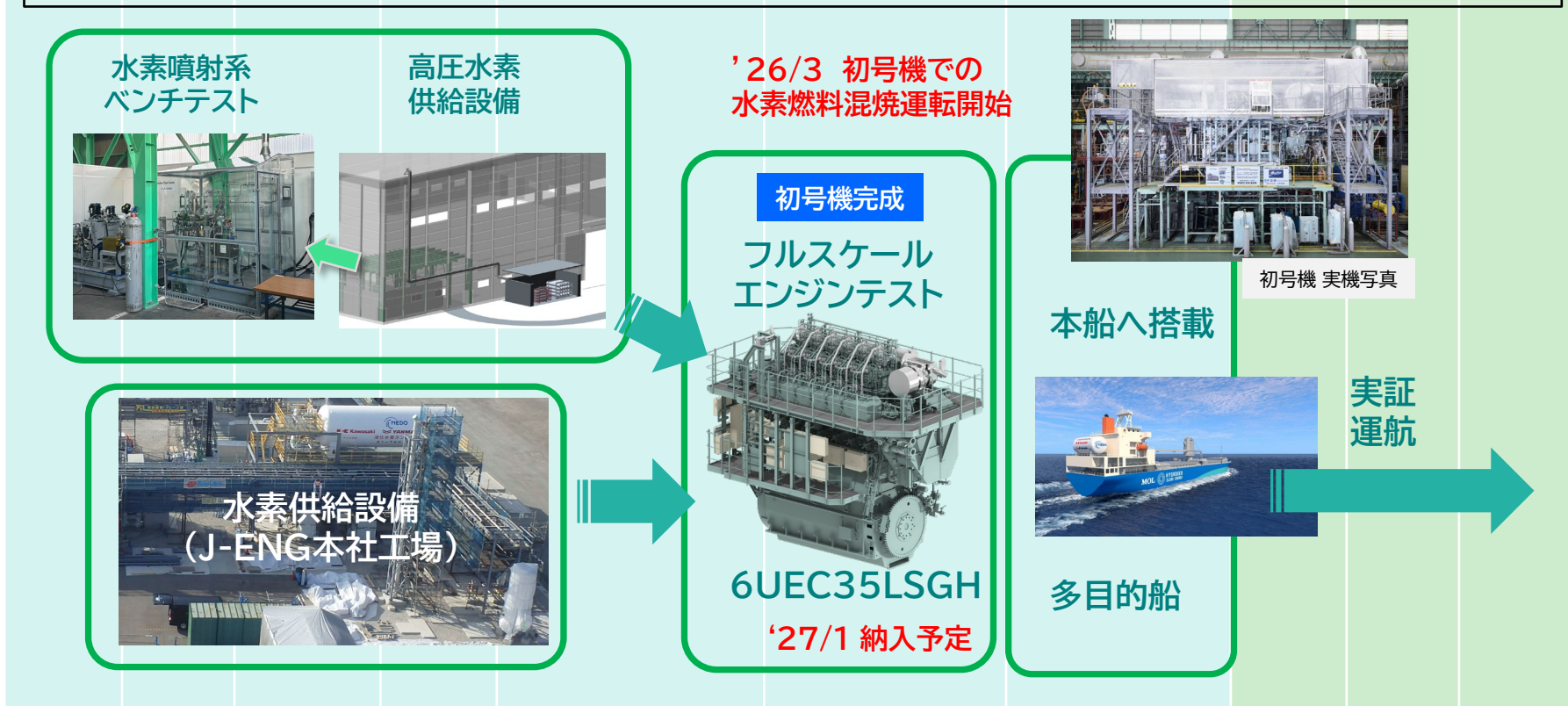
# 6. トピックス / 次世代脱炭素燃料エンジン(水素)

## ◎水素燃料エンジン / 製造・実証運航スケジュール (グリーンイノベーション基金事業)

・開発は計画に沿って進捗中。エンジン初号機は2026年度に完成予定。  
造船所へ納入後、造船所での本船建造工事を経て、就航後に実証運航を開始予定。

2021年度	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
	第1次 中期事業計画			第2次 中期事業計画			第3次 中期事業計画		

グリーンイノベーション基金事業 (2021~2030年度)



# 6. トピックス / 当社 新工場建設

## ◎新工場建設 (ゼロエミッション船等の建造促進 補助事業)

事業内容	本社工場エリア内を再編、アンモニア燃料エンジンの組立・試運転工場の新設と、それに応じたアンモニア燃料供給能力の増強を実施
事業金額	199.1億円 (最大補助金額 66.4億円)
事業期間	2024年度～2028年度

プロジェクトは計画通り進捗しており、  
建設工事が進捗中

- ・アンモニア燃料エンジンの社会実装・普及拡大フェーズに対応し、主機関の供給量を確保。**先行者利益の獲得、ゲームチェンジ実現**を目指すもの。
- ・本事業により、重油・脱炭素燃料を合わせた**エンジン生産能力は、現状の約1.5倍へと増強**される。また、プロダクトミックス生産を採用し、足元での需要継続が見込まれる重油燃料エンジンの供給責任も果たしつつ、脱炭素燃料エンジンへの生産シフトを段階的に進める。
- ・**脱炭素燃料エンジンの生産比率**は、2033年頃には40%とし、更に市場動向を踏まえ、**2040年度には100%**まで引き上げていく計画。
- ・本事業は、「ゼロエミッション船等の建造促進事業」に採択されており、事業進捗に応じて補助金を受取予定。



2025年12月  
地鎮祭を挙



↑事務所棟(既存)

↑新工場

## 6. トピックス / UEエンジン グローバル展開

### ◎UEエンジン グローバル展開 / GDF社 ライセンス生産拡大

※GDF:広州柴油機廠股份有限公司 (Guangzhou Diesel Engine Factory Co., Ltd.)

- ・当社が、中国におけるリーディングライセンシーと位置付けるGDF社では、UEエンジンの受注・製造・販売の好循環が拡大中。
- ・同社は、中国内航船マーケットにおける、船舶大型化のニーズを追い風に、中速から低速エンジンへと置き換える需要を取り込み。更に、外航船市場にも進出しており、同社におけるUEエンジン生産台数は、初号機完成から僅か2年4か月後の2024年7月に累計100台を突破。
- ・旺盛な需要を背景に、同社では、更なる増産を企図して新工場を建設。新工場は、2025年10月から本格稼働中。
- ・同社でのUEエンジン増産に連動して、当社の部品供給事業の売上高およびロイヤリティー収入が拡大。

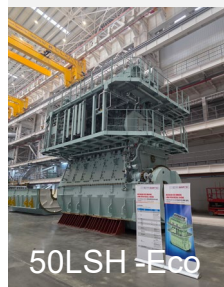
GDF 靖江工場(UEエンジン連続生産中)



GDF 広州新工場 (竣工、稼働中)



GDF製 UEエンジン



50LSH-Eco



60LSE-Eco

- ・当社は、GDFの活動を引き続き支援することで事業の更なる拡大に繋げていく。

## 6. トピックス / JPX日経中小型株指数に選定

- ・当社は、株式会社JPX総研および株式会社日本経済新聞社が共同で算出する「JPX 日経中小型株指数」の2025年度(2025年8月29日~2026年8月28日)構成銘柄として新たに選定されました。



### JPX-NIKKEI Mid Small

- ・「JPX 日経中小型株指数」は、「投資者にとって投資魅力の高い会社」を構成銘柄とし、資本の効率的活用や投資者を意識した経営観点など、グローバルな投資基準に求められる諸要件を満たした企業を選定することで、企業の持続的な成長を促し、株式市場の活性化を図ることを目的としております。
- ・構成銘柄の選定は、東京証券取引所のプライム市場、スタンダード市場、グロース市場を主市場とする普通株式銘柄から、時価総額や市場流動性指標等によるスクリーニングの後、定量的な指標(3年平均ROE、3年累積営業利益)のスコアリングや、定性的な要素(独立社外取締役の選任等)を加味した基準で行われ、上位200銘柄が採用されています。
- ・当社は、今後も、ステークホルダーの皆様からのご期待に応えられるよう、より一層の企業価値向上に努めてまいります。

## 6. トピックス / サステナビリティ経営の取り組み

- ・当社は、**人的資本**を重視しており、**経営戦略と人材戦略を連動**させるとともに、当社の持続的な成長を支える従業員について、多様なアプローチで**投資を強化**しております。

### ◎従業員エンゲージメント強化

- ・従業員の家族を職場に招待するファミリーデーを2026年度も開催、世界初の水素燃料エンジンを見学いただきました。

### ◎健康経営優良法人 5年連続での認定取得

- ・当社は、2017年4月の発足後、2022年3月に健康経営優良法人の認定を初めて取得しました。その後、中小規模法人から大規模法人へと部門変更を伴いつつ、5年連続で、認定を取得しています。



ファミリーデー2026 工場見学会



SNS掲載広告



電車ドアステッカー

### ◎ブランディング、認知度向上

- ・各種メディア・業界紙や公共交通機関などに広告を掲載中です。



当社広告  
(例)

**Be  
The First  
Mover**

私達は地球環境の新しい未来を「想像×創造」していきます。

**J-ENG**  
Japan Engine Corporation



神戸 三ノ宮駅 構内看板

Be the First Mover



1-38, Minamifutami, Futami-cho, Akashi, Hyogo Pref., 674-0093, Japan

<https://www.j-eng.co.jp/>

<IRに関するお問い合わせ>

電話番号：078-949-0800 / Eメール：[pr.info@j-eng.co.jp](mailto:pr.info@j-eng.co.jp)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。

また、実際の業績等は様々な要因により、記載されている内容とは、大きく異なる結果となる可能性がございますこと、ご承知置きくださいます様、お願い申し上げます。

※本資料に記載の金額は、表示単位未満の端数を、四捨五入・切捨て等で調整して表示しております。